

今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 齊藤 恭彦

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 柳澤 伸治

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 齊藤 恭彦

皆様、明けましておめでとうございます。平素は塩ビ工業・環境協会の活動に多大なるご理解とご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。新年にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

2021年も新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るった一方で、ワクチン接種の加速や各種の対策が奏功し、経済的には顕著な回復傾向が見られるなど、徐々にwithコロナの生活に馴染んできたように感じます。

国内では、様々な困難を乗り越えて東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本選手の活躍に勇気づけられた一年でもありました。GDPは2020年のマイナス4%台から緩やかに回復し、2021年のGDPは3%程度と見込まれています。私ども塩ビ業界は、2021年前半こそやや低調であったものの、米国、インド等の急激な需要回復に伴い後半は生産・出荷共に順調に回復しました。各種原材料価格の高騰といった懸念材料はあるものの、今後とも昨年10月に発足した新政権の経済政策には大いに期待したいところです。

以上のような背景のもと、当協会が注力して参りました活動の内容と本年の方針について簡単に紹介させていただきます。

まず広報活動では、ホームページのコンテンツを充実させつつ各種展示会へのオンライン参加に注力しました。同時に、他の協会や団体のホームページにもリンクを掲載いただくなど、コンテンツへのアクセス性を高める工夫を施しました。オンライン展示会では、参加団体の中でもアクセス数がトップを争うなど、一定の成果を挙げたと考えております。次に、コロナ禍で制限を受けていた取材や面談、出前授業も徐々に対面での実施が可能となり、積極的に対応しました。国内外で地球環境や化学物質規制への関心が高まる中、自動車メーカーほか、各業界団体・企業からの要請を受けて塩ビや可塑剤をはじめとする各種添加剤に関する情報提供、意見交換を実施、塩ビに対する正しい理解を広げられたと感じています。さらに2021年は、「生活を豊かにするPVC製品」をテーマに、前回と同様、上市後5年未満あるいは近々上市予定の製品を対象としたPVC AWARD 2021を開催しました。多くの方々に関心を持っていただき、幅広い分野から応募がありました。受賞作品はPVC Award公式ホームページで紹介し、2022年1月11日に表彰式を行います。なお、1月21日～1月30日の間、東京丸の内のGOOD DESIGN Marunouchiで展示会を開催い

たしますので、ぜひ足をお運びください。

次に建材関連では、樹脂窓の一層の普及や窓周辺での新たな塩ビ製品の開発に引き続き注力しました。また、当協会はこれまで、耐候性に優れた樹脂窓の開発をより一層促進するために新たな促進耐候性試験方法のJIS化に取り組んできました。2021年11月に正式にJISとして制定されたことで、樹脂窓メーカーでの開発の加速に大いに貢献できるものと期待しております。さて、世界的にカーボンニュートラルへの要求が激しさを増し、わが国でも2050年にカーボンニュートラル達成という目標が政府から打ち出されました。樹脂窓はその優れた断熱性能で、特に冬季の省エネルギー効果が期待され、関係各所の協力を得つつその効果を検証中です。一方で、夏季の省エネルギー効果を高めるためにはシャッターやブラインドといった遮熱性を有する付帯設備が効果的であり、当協会はこれら付帯設備での塩ビ樹脂製品を新たに開発する検討に取り組んでいます。さらに、住宅を含む建造物でのゼロ・エネルギー化を総合的に検討すべく、学識経験者、住宅建材メーカー、関係省庁等のご協力のもと、2021年11月に新たな検討会を設置し、ライフスタイルや健康・快適性も考慮した検討を進めることとしました。カーボンニュートラルの実現に向け、省エネルギーへの要求は高まる一方です。当協会は樹脂窓をはじめとして、塩ビ製品の一層の普及に努めます。

他方、海洋プラスチックごみ問題等、プラスチックに対するネガティブイメージを払拭するためにも、リサイクル活動の重要性は益々高まっております。当協会では、先行する欧州の例を参考に樹脂窓のリサイクル活動を進めて参りました。2021年は行政や現地の専門業者様のご協力も得ながら、北海道内で回収～解体～再生をシステム化する検討を進めており、引き続き各々の工程が抱える課題を着実に解決して参ります。一方で、プラスチック廃棄物の輸出入を適正に管理すべく施行された改正バーゼル法によって一時的に混乱、停滞した廃棄物市場の声にも対応しました。すなわち、国内輸出業者の疑問点や留意点などに関して規制当局との意見交換でその対応を明確にし、情報提供を行うこと等により新たな輸出手続きのスムーズな施行に貢献して参りました。円滑な取引が実現するよう、引き続き注視して参ります。さらに、コロナ禍でしばらく中断しておりました塩ビ建材連絡会議を2021年11月に再開、各製品群のリサイクル状況に関する現状を確認しました。塩ビ樹脂製品の優れた材料リサイクル性をより一層アピールするには、やや頭打ち感のある材料リサイクル率をさらに高める努力が求められると感じており、各製品団体や協会の皆さまと共に進めて参る所存です。

カーボンニュートラルやリサイクル等持続可能な社会の実現のための課題の克服は塩ビ業界も例外ではありません。一方で、塩ビ樹脂はLCAや材料リサイクル性など、他の樹脂と比較しても有利な点が多い素材であり、このことをより多くの方々にご知っていただくことも当協会の重要な役割です。本年も塩ビ製品の普及促進に資する活動を鋭意進めて参る所存ですので、引き続き関係各位のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、塩ビ事業に携わっておられる各社の益々のご隆盛と、皆様のご健勝を祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は一昨年につきコロナウイルス対策に明け暮れた1年でありました。新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、健康面や生活面で影響を受けておられる方々に、心からお見舞い申し上げます。また、医療従事者や生活物資の供給者など、様々な形で国民の生命・生活を支えておられる方々に対して改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの我が国の感染者数は、一時は最大で1日当たり国内で2万5千人を超えることもありましたが、昨年8月以降急速に減少し、11月以降は100人～200人で推移しています。一方で変異株であるオミクロン株の感染者が日本でも確認されたことから、今後の動向に注視する必要があります。

経済面では、日本政府が補正予算等を通じて景気刺激策を講じるとともに、年後半にはワクチン接種が進み、感染者数が落ち着きを見せ始めたことから、昨年の我が国の経済成長率(実質GDP伸び率)(出典:国際通貨基金 世界経済見通し(2021年10月公表)以下同じ)は2.4%と一昨年の-4.6%に比べ大幅に増加することが見込まれています。こうした傾向は欧米諸国や中国、インド等新興国にも当てはまり、世界経済は5.9%(2020年は-3.1%)とV字回復すると見込まれています。

この他、昨年は温暖化対策推進法の一部が改正され、同法第2条の2(基本理念)に“我が国における2050年までの脱炭素社会の実現を旨として(以下略)”が明記されました。さらに英国グラスゴーで開催されたCOP26では、我が国は今後5年間で最大100億ドルの追加的な資金支援を行うとコミットするなど環境面においても重要な年でありました。

塩ビ工業・環境協会としましては、本年も新型コロナウイルスとの闘いが続くことを念頭に、当協会の定款に記述された以下の2つの目的を達成するために全力で事業を推進する所存です。

- 塩化ビニル工業に関する環境、安全に係わる諸問題の調査・研究及びその成果の普及を通じ、塩化ビニルに関する正しい理解を広める
- 塩化ビニル工業に関する生産、技術、流通、消費等の調査・研究を行い、もって塩化ビニル工業の健全な発展に寄与する

特に世界経済が上記のように本年も順調に回復することが見込まれており、さらに日本を含め欧米先進国がインフラ投資を活発化させていることから、パイプ、継手、建材等の分野での塩ビ製品の需要拡大が期待されます。また、塩ビ製品は耐久性(長寿命)、断熱性、製造時の二酸化炭素排出量等の面で優れた特性を有していることから、脱炭素社会の形成に大きく貢献する可能性があると考えています。本年も引き続き当協会は、塩ビ製品の正しい理解の増進と需要拡大に努めて参ります。

本年は寅年です。「寅」は動くの意味で、春が来て草木が生ずる状態を表しているようです。今年こそは新型コロナウイルスが収束し、国内外の移動が自由にできることを期待したいものです。

最後に塩ビ業界の皆様の益々のご発展とご健勝、そして令和4年が皆様方にとって素晴らしい一年となることを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
